

「ボクの娘爆乳ソープ……？」

街角で見かけたその広告に俺はすぐ電話した。

近場のホテルで待機していると数十分後、

「お電話されて来ました。扉あけてくれる？」

「コンばんはボクはヘステイア。

キミを神のおっぱいで天国に誘ってやるぜ！」

「幸薄そうな顔してるね。まあ、せっかく来てあげたんだしボクに任せてよ。」

「は、はあ……なんで頼んだ俺よりテンション高いんだこの娘……」

すっ

「さあーてボクの自慢の爆乳でキミのムスコを神なる愛で包んで……」

「う、うーん、ボクのじまんのはくにはゆうでは
キミの逸物は包めないみたいだね……」

「ちよつとびっくらこいたよ……うん」

ぽふい

「いやなんか……すみません」

「まあそれはいいんだ……
それよりボクのテクニクを見せてあげるよ！くそお！」

「ほらほらどうだい？こんなパイズリ初めてだろう？」

「すげえ、目の前でヘスティアちゃんのエロデカ乳輪ぶるぶる揺れて興奮する……！」

ムムム

たぶ

ムムム

たぶ

「うおう……亀頭ペロペロされるとじんわり気持ちいい……！」

「そうだろう？そうだろう。亀さんも赤くなってるって嬉しいね！」

「おちんぼびくびくしてるとよ？そろそろイキそうなのかいマ。」

「くう、ああ……溜まってきた精子だしちやいますっ！」

たぶ

精子
精子

たぶ

「たぶぶりぶっかけていいよ♡
ほらっ、ボクの爆乳パイズリでイっちやえ♡」



「うわーすっごい濃厚ザーメン♡
キミもこんな溜め込んで大変だねえ……♡」

はあ♡

うん♡

「さてどうする？もうおまんこしちゃう？」

「ボクはなんでもいいよ……♡」

How♡

「どうだい？ポクの一级品のおまんこは♡」

ハハハ

ハハハ

ん……♡

「くっ、自分で言うんですけど……！
でも確かにすごく具合がいいです……！
膣中がうねうね動いて……！」



「はあっ……くっ！……うああ」

10
10
10

10
10
10

んんん
♡♡♡

「おやおやそんな夢中になっちゃって……かおいいいぢやないか♡」



「こんなもんぶら下げて……くっそ！」

「うおっやわらかっ……指が沈み込む……」

ハッハッ

ハッハッ

もみもみ

んふっ♡

「女の子の身体で一番のやわらかポイントだからねっ♡
爆乳のボクの場合は特に♡」



「はあっ……はあっ……はっはっはっ！も、もう……」

あんな

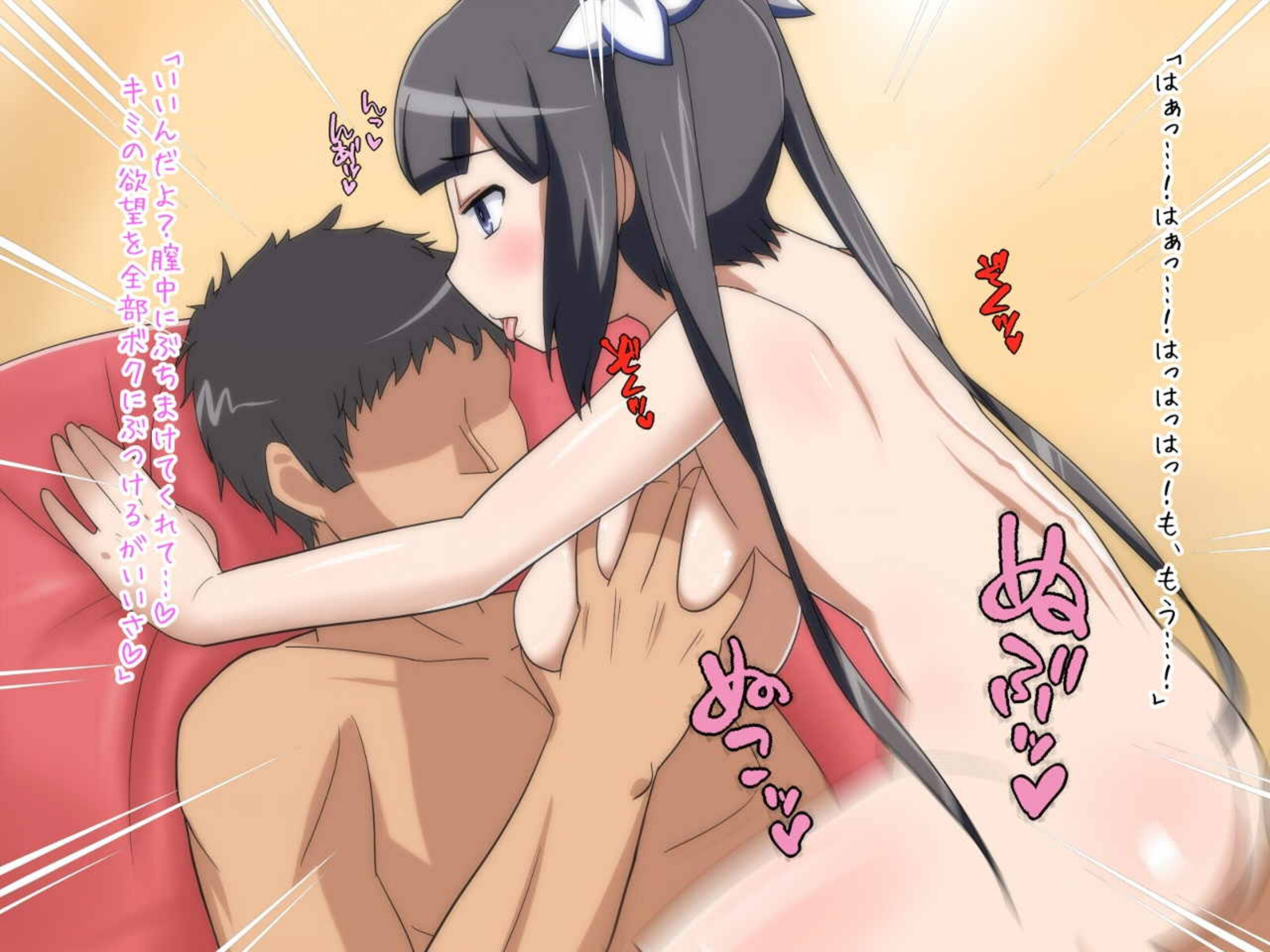
ぬるぬる♡

あんな

あんな

あんな♡

「いいんだよ？ 膣中にぶちまけてくれて……♡
キミの欲望を全部ボクにぶつけるがいい♡」





ふぁん♡♡♡♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

はっ♡♡

「ああん♡ニ発目なのにとくさんどひやどひやしてくるね♡」
「おまんこから溢れてきちゃうよ♡」

どひや♡

どひや♡

どひや♡

どひや♡

「……ヘステイアちゃんちよつと要望があるんだけど……」





「ま……なんでもいいけどさ……んっ♡」

「……なぜキミはこんなスケベな道具を用意しているんだい？」

アイテム

むち♡

むち♡

ぬいぐるみ♡

「んっんっんっ♡この体勢だと深く入ってくる……♡」

「はあ……！目の前でおっぱいが踊ってる……！」

「ボクのおっぱいはいぶるんぶるんしてるのがそんなに楽しいのかい？」
「男の人はいくつになっても変わらないものだね……♡」

♡
♡

♡
♡

おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい



「んあっ♡キミのガンガン勃起おちんぽと
ボクのおまんこのラブラブラキスいいっ♡」

「やっぱり相性ばっちりみたいだねっ♡はあ♡」

「ヘスティアちゃんのエロ水着似合いすぎる……
みんなの勃起収まらない……」



「あんっあんっ♡はあん♡ストロークはげしい♡
ボクのおまんこの形がキミ専用のちんぽケースになる♡ちんぽっ♡♡♡

♡♡♡

「キミのザーメン欲しがっちゃう♡ほお♡
ボクのおまんこザーメン欲しくてくぼくほしちゃうよ♡♡

「俺ももう限界…ハスティアちゃんの膣内にでるう…!」





あーっ

ヒキ
ヒキ

ヒキ

「おおおおおん♡♡ああああ♡♡」

「はあ、はあ………すげえ搾り取られた……」

はあ♡

はあ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡♡♡

「はーっ♡はーっ♡すっごい量出すねキミはホントに
「ボクとしたことが気をやられてしまったよ……♡
ひどいおちゃんぽだっ♡♡」

